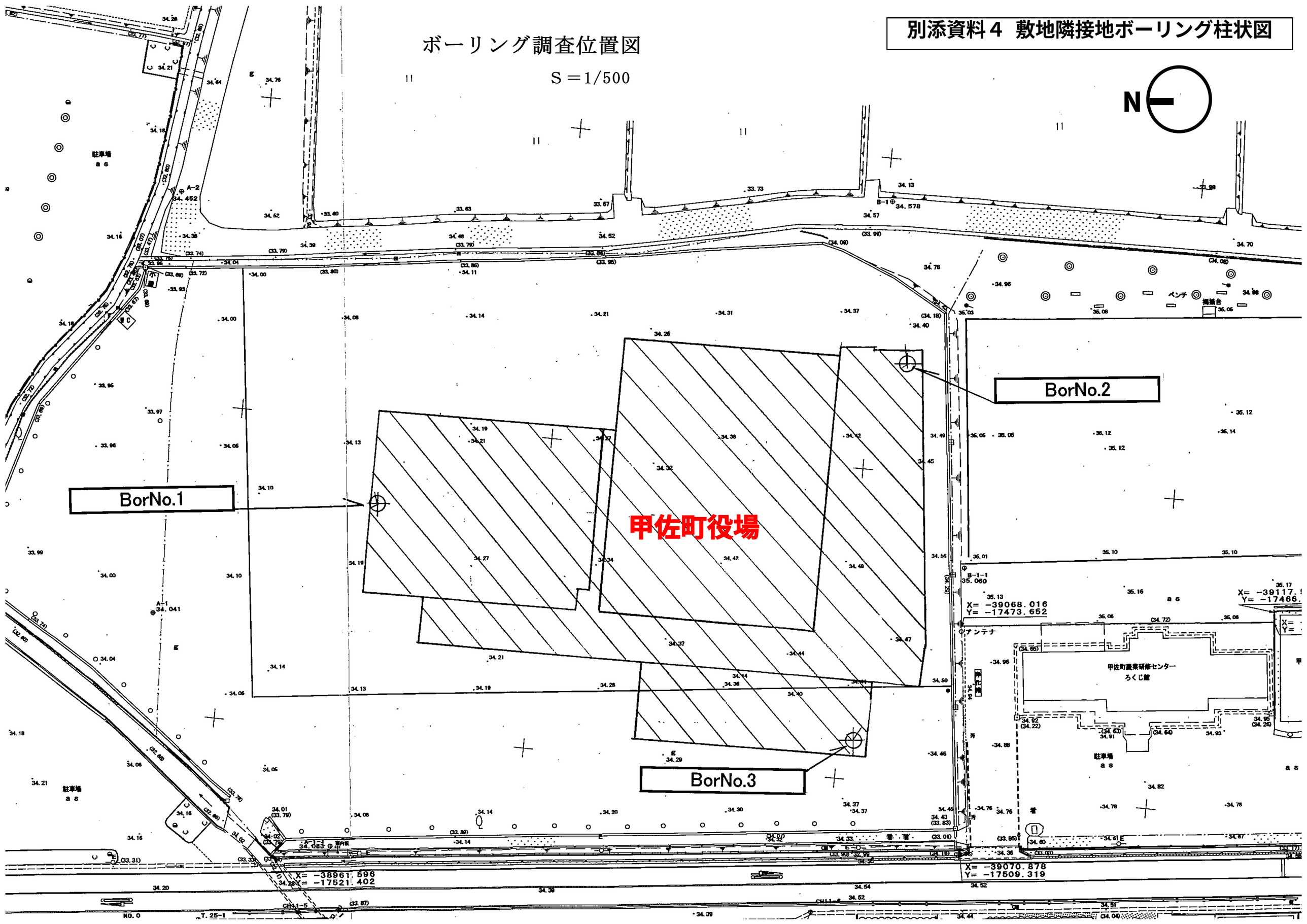
別添資料４ 敷地隣接地ボーリング柱状図

ボーリング調査位置図

S＝1/500



ボーリング柱状図

調　査　名　甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター新築工事地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	4	8	3	0	7	6	7	5	0	0	1

シートNo.　1/3

ボーリング名	No.1	調査位置	上益城郡甲佐町岩下地内							北緯	32° 38′ 52.0000″
発注機関	甲佐町役場			調査期間	平成15年 2月 1日～平成15年 3月25日					東経	130° 48′ 50.0000″
調査業者名	九州舗装 株式会社 電　話 096-378-7206	主任技師	井上　幸一郎	現場代理人	中村　章太郎	コア鑑定者	井上　幸一郎	ボーリング責任者	芦原　清行		
孔口標高	TBM 34.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦D0-C型	ハンマー落下用具 コーンプーリー
総掘進長	13.00m								エンジン	ヤンマーNFAD7	ポンプ 東邦BG-3C型

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	33.55	0.60	0.60		埋土	暗青灰			0.0～0.10m　マサ土（黄褐）　下位は1～3cm程度の亜円・亜角礫を20～30%程度混入するもので、砂は粗粒砂の砂礫状を呈する。
1	32.95	0.60	1.20		礫混り砂質土	黒灰	非常に緩い		極少量の軽石を混入する。細・中粒砂主体。
	32.30	0.65	1.85		砂質シルト	褐			旧耕作土。腐植物及び1cm程度の円礫を極少量混入する。
2					礫混り砂	黄褐	中くらい		礫は1～2cm程度の亜円・亜角礫を5～10%程度混入する。 砂は細・中粒砂主体。
3	30.75	1.55	3.40						
4					砂礫	灰橙			礫は1～5cm程度の亜円・亜角礫を20～30%程度混入する。 マトリックスは中・粗粒砂となるが、やや粒径不均一。 4mの貫入後に自然水位確認。帯水中位で、孔壁の崩壊が著しい。
5									
6	27.20	3.55	6.95						
7					粘土混じり砂礫	黄褐			1～5cm程度の亜円・亜角礫を30～40%程度混入するもので、マトリックスは中・粗粒砂となるが、粒径やや不均一。 帯水やや多く、孔壁の崩壊性が著しい。 粘土分は粘性やや有り。 8.0～10.70m区間は5～6cm程度の礫を多く混入する。
8									
9									
10									
11	22.85	4.35	11.30						11.30～11.65m区間は、砂質土状にて採取。
12					凝灰岩	黒褐			風化凝灰岩 12.50mより硬岩用WCTにて採取。
13	21.15	1.70	13.00						軽石混り砂状を呈し、弱固結状にて採取される。
14									
15									
16									
17									
18									

粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
		1.15	1/25	1/12		2/37	2
		1.52					
		2.15	4	4	4	12/30	12
		2.45					
		3.15	7	14	13	34/30	34
	3/15 3.85	3.45					
		4.15	6	6	6	18/30	18
		4.45					
		5.15	8	14	18	40/30	40
		5.45					
		6.15	5	5	6	16/30	16
		6.45					
		7.15	20	19	11/9	50/29	50
		7.44					
		8.15	50/7			50/7	50
		8.22					
		9.15	10	17	23/8	50/28	50
		9.43					
		10.15	24	26/9		50/19	50
		10.34					
		11.15	29	14	7	50/30	50
		11.45					
		12.15	33	17/2		50/12	50
		12.27					
		13.15	23	27/9		50/19	50
		13.34					

原位置試験 深度 m	試験名及び結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日

ボーリング柱状図

調　　査　　名　甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター新築工事地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	4	8	3	0	7	6	7	5	0	0	4

シートNo.　3/3

ボーリング名	No.2	調査位置	上益城郡甲佐町岩下地内							北緯	32° 38′ 52.0000″
発注機関	甲佐町役場			調査期間	平成15年 2月 1日～平成15年 3月25日					東経	130° 48′ 50.0000″
調査業者名	九州舗装　株式会社 電　話 096-378-7206	主任技師	井上　幸一郎	現場代理人	中村　章太郎	コア鑑定者	井上　幸一郎	ボーリング責任者	芦原　清行		
孔口標高	TBM 34.42m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦D0-C型	ハンマー落下用具　コーンプーリー
総掘進長	12.00m								エンジン	ヤンマーNFAD7	ポンプ　東邦BG-3C型

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1	33.27	1.15	1.15		埋土	黄褐 暗青灰 黒灰			0.00～0.10m マサ土（黄褐） 0.10～0.50m 砂礫状（暗青灰） 0.50～0.60m 礫混り粘性土（黄褐）		
	33.07	0.20	1.35		砂質シルト	褐灰			0.60～1.15m 軽石混り砂質土（黒灰）		
2	32.47	0.60	1.95		砂	濃黄			旧耕作土と思われるもので、腐植物を極少量混入する。 細粒砂主体。上部はシルトを含有。		
3					砂礫	灰橙			砂は細・中砂で粒径不均一。 φ1～4cm程度の亜円・亜角礫を20～30%程度混入する。 孔壁の崩壊性やや有り。		
4											3/12 4.30
5									4.60m付近より逸水する。		
6	28.42	4.05	6.00		玉石混り砂礫	暗褐～灰褐			礫径1～4cm程度の亜円・亜角礫を20～30%程度混入する。 マトリックスは、中・粗粒砂でやや粒径不均一。 帯水少ないが、孔壁の崩壊性有り。		
7											
8	26.32	2.10	8.10						7.40m付近より、凝灰岩の転石有り。φ10cm程度。		
9					粘土混じり砂礫	褐～褐灰			礫径1～3cm程度の亜円・亜角礫を30～40%程度混入する。 マトリックスは中・粗粒砂主体。		
10									10.85～11.50m区間は礫の混入率はやや少ない。		
11											
12	22.42	3.90	12.00								
13											
14											
15											
16											
17											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
1.15	1 / 11	3	3 / 9	7 / 30	7
1.45					
2.15	5	5	8	18 / 30	18
2.45					
3.15	5	7	11	23 / 30	23
3.45					
4.15	7	7	6	20 / 30	20
4.45					
5.15	6	6	8	20 / 30	20
5.45					
6.15	13	14	12	39 / 30	39
6.45					
7.15	7	9	34 / 7	50 / 27	50
7.42					
8.25	20	23	7 / 2	50 / 22	50
8.47					
9.15	18	18	14 / 8	50 / 28	50
9.43					
10.15	17	26	7 / 3	50 / 23	50
10.38					
11.15	16	17	17	50 / 30	50
11.45					
12.15	18	29	3 / 1	50 / 21	50
12.36					

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　甲佐町役場庁舎及び生涯学習センター新築工事地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.	4	8	3	0	7	6	7	5	0	0	2

シートNo.　2/3

ボーリング名	No.3	調査位置	上益城郡甲佐町岩下地内						北緯	32° 38′ 52.0000″	
発注機関	甲佐町役場			調査期間	平成15年 2月 1日～平成15年 3月25日				東経	130° 48′ 50.0000″	
調査業者名	九州舗装 株式会社 電　話 096-378-7206	主任技師	井上　幸一郎	現場代理人	中村　章太郎	コア鑑定者	井上　幸一郎	ボーリング責任者	佐藤　元明		
孔口標高	TBM 34.42m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦D0-C型	ハンマー落下用具 コーンプーリー
総掘進長	11.00m								エンジン	ヤンマーNFAD7	ポンプ 東邦BG-3C型

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
	34.17	0.25	0.25		埋土	暗褐			上部5cmは砕石。下位は砂礫状の埋土。		
1	32.67	1.50	1.75		シルト質砂	暗褐	緩い		全般に細砂主体で指圧で揉むとシルト化を呈する。 1.20mで色調に変化有り。20mm程度の角礫をやや多く混入する。最大礫長＝70mm		
2					砂礫	暗黄～暗青～暗緑			粗砂主体で20～50mmの亜円礫を30％程度含む。 4.20m以浅部分では、粘土分を少量含む。 最大礫長＝40mm		3/16 4.15
3											
4											
5	28.82	3.85	5.60								
6					玉石混り砂礫	暗褐～灰褐			上部7m以浅部分では、花崗岩・砂岩礫の100mm程度の巨礫を点在する。 砂は中・粗砂主体で、やや風化状で、20～30mm程度の亜角礫を多く含む。 9.70mよりチャート礫を20cm確認する。		
7											
8											
9	24.52	4.30	9.90								
10	23.42	1.10	11.00		粘土混じり砂礫	暗黄			粘土分をやや多く含み、角礫の10～20mm程度を多く含む。 最大礫長＝50mm		
11											
12											
13											
14											
15											
16											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
1.15	1 / 18	1 / 2	3	5 / 30	5
2.15	8	16	12	36 / 30	36
3.15	6	5	4	15 / 30	15
4.15	9	7	5	21 / 30	21
5.15	13	11	10	34 / 30	34
6.15	23	27 / 5		50 / 15	50
7.15	23	24	3 / 1	50 / 21	50
8.15	17	18	15	50 / 30	50
9.15	14	9	27 / 8	50 / 28	50
10.15	25	15	10 / 9	50 / 29	50
11.15	50 / 3			50 / 3	50

原位置試験 深度 m	試験名及び結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日